

★★★ 日本プロテオーム学会 学会通信第 236 号 ★★★

第 67 回日本電気泳動学会総会開催のご案内

日本プロテオーム学会の皆さま

国立がん研究センター研究所の近藤格先生より第67回日本電気泳動学会総会の開催のご連絡が届きましたので、以下にご案内申し上げます。

(本メール下段に記載のプログラムが読みにくい場合は、添付のプログラムをお読みください)

日本プロテオーム学会事務局

日本プロテオーム学会会員の皆様

第 67 回日本電気泳動学会総会を、平成 28 年 8 月 26-27 日 (金、土)、釧路市観光国際センターにて開催いたします。

第 67 回総会では、電気泳動という基盤技術の開発と応用に関心をもつ方々が集い、学際的な視点から発表・討論を行います。日本電気泳動学会の定例の総会およびシンポジウムでは、電気泳動の素材や技術の開発、既存技術の改良や新しい活用法、バイオマーカーや創薬標的の探索への応用、臨床検査への活用など、多種多様な内容が討論されてきました。本会には、大学や企業の研究者、臨床従事者など、さまざまな背景をもつ方々が集まっています。いろいろな分野の研究を「電気泳動」というユニークな切り口からとらえる本学会のアプローチは、参加者の方々からたいへん好評です。第 67 回総会も今までと同様に盛況な会となるよう、企画したいと思えます。

第 67 回総会の開催を予定する釧路市は北海道の北東に位置し、羽田空港から釧路空港まで直通便でわずか 1 時間半と、たいへんアクセスしやすい立地条件にあります。釧路市は観光地としてたいへん魅力的な街です。釧路市は、日本最大級の湿原「釧路湿原」、天然記念物のマリモやタンチョウが生息し遊覧船や温泉も楽しめる「阿寒湖」が有名です。また、北海道三大市場の一つ「和商市場」では北海の新鮮な海産物を堪能できます。文化的には、釧路市の歴史を学ぶことができる「釧路市博物館」、アイヌ民族の生活や文化に触れることができる「アイヌコタン」が特色です。夏の涼しい北海道で、五感をフルに働かせ気分をリフレッシュしつつ活発に情報交換することで、本会を益々発展させていきたいと考えています。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第67回 日本電気泳動学会総会

総会長 近藤格

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1国立がん研究センター研究所

mail: 66th-meeting@jes1950.jp

E-

第 67 回日本電気泳動学会総会は下記の要領で開催します。参加登録の受付を開始しました。ホームページを参考に、事前登録をお願いします。

[\(第67回日本電気泳動学会ホームページ\)](#)

第 67 回日本電気泳動学会総会

総会長 近藤格 (国立がん研究センター)
会 期 2016年8月26日(金) ~ 27日(土)
会 場 釧路市観光国際交流センター
(〒085-0017 釧路市幸町3-3 TEL: 0154-31-1993)

参加費 正会員、準会員、メール会員は無料
非会員の方には若干の抄録集代金をお願いするかもしれません。
懇親会参加費 8000円

予定シンポジウム

セッション1：電気泳動による臨床検査・機能性食品の新たな展開

オーガナイザー：森山隆則先生 (北海道大学)

「腫瘍産生シアリル唾液型アミラーゼの発見とその後の展開」

森山隆則先生 (北海道大学)

「DNA シーケンサーによる HIV 薬剤耐性変異の検出とその課題」

吉田繁先生 (北海道大学)

「マガキ由来抗酸化物質における機能性食品としての可能性」

布田博敏先生 (北海道大学)

「検査室での ApoE-rich HDL との遭遇から診断薬開発まで」

千葉仁志先生 (北海道大学)

セッション2：蛋白異常を標的とした病態解析と診断治療へのアプローチ

オーガナイザー：安井寛先生 (東京大学)

「多発性骨髄腫における先端医療開発の今後」

Perspective of the advanced medical research and development in multiple myeloma

安井寛先生 (東京大学)

「Clinical recommendations for the measurement of serum free light chains and the emerging role of heavy/light chain pair analysis in the management of monoclonal gammopathies」

Nuno Barbosa 先生 (The Binding Site Group Ltd, イギリス)

「ポリアクリルアミドゲル電気泳動によるマラリア患者リポ蛋白解析」

Lipoprotein analysis by polyacrylamide gel electrophoresis in malaria patients

磯尾直之先生 (東京大学)

「3次元電気泳動によるM蛋白解析とその多様性」

Characterization of M-proteins-heterogeneity using three-dimensional gel electrophoresis

中野恵一先生 (北海道大学)

セッション3：キャピラリー電気泳動法の最前線

オーガナイザー：志村清仁先生 (福島県立医科大学)

「キャピラリー電気泳動によるエリスロポエチンの分析」

志村清仁先生（福島県立医科大学）

「RNA キャピラリー電気泳動」

山口佳則先生（大阪大学）

「オンチップ電気泳動システムによる生体由来ナノ粒子解析」

一木隆範先生（東京大学）

「キャピラリー電気泳動法を用いる細菌および動物細胞を認識する DNA アプタマーの新規獲得法」

齋藤伸吾先生（埼玉大学）

「生体分析への応用を目指した簡易操作型マイクロチップ電気泳動法の開発とさらなる高感度化」

北川史彦先生（弘前大学）

セッション4：Phos-tag 電気泳動法の応用

オーガナイザー：木下英司先生（広島大学）

「質的・量的なリン酸化ダイナミクスを捉える Phos-tag SDS-PAGE」

木下英司先生（広島大学）

「神経細胞における微小管脱重合の制御機構の解明：Phos-tag からリン酸化定量プロテオミクスまで」

小川覚之先生（東京大学）

「Phos-tag を利用した腫瘍細胞における核内タンパク質群のリン酸化制御機構の解明」

石垣靖人先生（金沢医科大学）

「Phos-tag を利用した高感度リン酸化定量

～腎微小循環系におけるミオシンリン酸化調節機構の解明を目指して～」

竹谷浩介先生（旭川医科大学）

「Phos-tag biotin を用いた受容体作動性 TRPC6 チャネルの PKA リン酸化部位の同定」

堀之内孝広先生（北海道大学）

セッション5：臨床検査における電気泳動法

オーガナイザー：飯島史朗先生（文京学院大学）

「蛋白分画と免疫電気泳動は相思相愛？」

上田一仁先生（市立芦屋病院）

「生化学自動分析装置における異常反応検出機能によって検出された検体の解析」

本田早織先生（千葉大学）

「電気泳動法の臨床検査への貢献 -泳動結果の臨床的解析と報告について-

土屋達行先生（けいゆう病院）

「尿タンパク電気泳動をペットの腎症診断へ」

ハウリー亜紀先生（文京学院大学）

セッション6：悪性腫瘍の分子背景を探る技術としての電気泳動法

オーガナイザー：近藤格（国立がん研究センター）

「Quest for biomarkers/gene signatures in sarcoma by using comprehensive meta data」

Cuneyd Parlavan 先生（イスタンブール医科大学、トルコ）

「血清プロテオーム解析を用いた肺扁平上皮癌のバイオマーカー探索」

清家正博先生（日本医科大学）

「蛍光二次元電気泳動法を用いた大腸がんのプロテオーム解析と APC-binding protein EBI の臨床応用への試み」

杉原豊先生（ルンド大学）

「大型蛍光二次元電気泳動法を用いた胆道がんのプロテオミクス解析-胆道がん細胞株、Xenograft モデル、臨床検体を用いて-

諸藤教彰先生（康和会 久我山病院）

「骨軟部腫瘍の組織型特異的融合遺伝子に関わるプロテオーム解析」

末原義之先生（順天堂大学）

「粘液線維肉腫浸潤性関連候補タンパク質同定のための蛍光2次元電気泳動法を用いたプロテオーム解析」

菊田一貴先生（慶應義塾大学）

「2D-DIGE を用いたヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の併用療法のターゲットの同定」

藤井一恭先生（鹿児島大学）

「手術検体を用いた腎細胞がんのプロテオーム解析」

細谷法之先生（山形大学）

「ホルマリン固定パラフィン包埋組織からの胆嚢がん特異蛋白の検索」

浅井孝夫先生（新潟医療福祉大学）

セッション7：アフィニティーに関連する電気泳動技術

オーガナイザー：大石正道先生（北里大学）

「糖アフィニティー電気泳動法による高分子量タンパク質の解析」

大石正道先生（北里大学）

「アフィニティー電気泳動法の開発と応用」

中村和行先生（徳山医師会病院）

「アフィニティ分子マトリックス電気泳動の新たな技術展開」

亀山明彦先生（産業技術総合研究所）

「低分子化合物の自己集合で形成する超分子ゲルを用いた電気泳動法の開発」

山中正道先生（静岡大学）

セッション8：細胞生物学の最先端科学

オーガナイザー：武川睦寛先生（東京大学）

「ストレス顆粒形成によるストレス誘導アポトーシスの制御と活性酸素によるその破綻」

武川睦寛先生（東京大学）

「ゴルジ体ストレス応答 - ゴルジ体から核へのシグナル伝達」

吉田秀郎先生（兵庫県立大学）

「リボソーム修飾シグナルによる翻訳の動的制御」

稲田利文先生（東北大学）

「直鎖状ユビキチン鎖による炎症・免疫シグナル制御とその破綻による疾患」

徳永文稔先生（大阪市立大学）

セッション9：新しい消化器疾患の診断・治療研究

オーガナイザー：伊東文生先生（聖マリアンナ医科大学）

「胃内視鏡洗浄液による分子診断」

伊東文生先生（聖マリアンナ医科大学）

「microRNA フィールド破綻に基づく B 型肝炎の発がんリスク診断」

高橋秀明先生（札幌医科大学）

「肝細胞癌の新規腫瘍マーカーの探索」

清川博史先生（神奈川県立がんセンター）

「肝細胞造影による肝細胞癌スクリーニングを可能とする新規 X 線造影剤開発の試み」

松本伸行先生（聖マリアンナ医科大学）

セッション 10：電気泳動を基盤とした研究の現状と今後の展望

オーガナイザー：佐藤雄一先生（北里大学）

「がんの研究におけるプロテオーム解析の考え方」

近藤格（国立がん研究センター）

「Multi-proteomics approach towards clinical applications in sarcomas」

喬志偉先生（国立がん研究センター）

「Reverse-phase protein array 法を用いた血清診断マーカーの探索」

柳田憲吾先生（北里大学）

「マルチ PK 抗体：プロテインキナーゼを幅広く認識できる解析ツール」

杉山康憲先生（香川大学）

「新規鶏卵卵黄アレルゲンの探索・同定、食品化学における電気泳動法の応用」

曾川一幸先生（麻布大学）

「癌幹細胞化させた微少乳頭肺腺癌細胞株を用いたプロテオーム解析」

長塩亮先生（北里大学）

ランチョンセミナー

スポンサー：sainome 株式会社

「やさしい in-gel digestion」

近藤格・塩澤久美子（国立がん研究センター）